

令和2年度

奈良市奈良公園周辺地区まちづくり部分

基本計画(旧奈良監獄周辺エリア)策定等業務委託に関するご提案

2021年1月

1. 現状の分析

1-1. 上位計画策定の背景と本計画の目的

- ・奈良県は、奈良公園の「維持」・「利活用」による観光振興とともに、受入環境の充実による滞在型観光を推進するため、平成25年9月に統合特別区域法に基づく「奈良公園観光地域活性化総合特区」の認定を受けた。
- ・これを受け、奈良県及び奈良市は、市内の持続的発展や活性化に企図したまちづくりに資するため、相互の情報や意見の交換、協働して取り組むべき事項について緊密に連携し協力するため、平成27年1月に「まちづくりに関する包括協定」を締結した。協定の4地区のうち、奈良公園周辺地区は、県、市事業の連携を図り、より魅力的なまちづくりを進める地区としている。
- ・法務省による旧奈良監獄の利活用など、奈良公園北側における滞在型観光の推進に伴い、奈良県としても受入環境の充実に資するため、平成28年11月に「奈良公園観光地域活性化総合特区」の区域を拡大し旧奈良監獄一帯を含むことにした。なお、法務省、奈良県、奈良市は、旧奈良監獄及び鴻ノ池運動公園の周辺整備に関して、包括的な連携と協力に関する協定を平成29年12月に締結している。
- ・一方で、奈良公園に隣接する奈良町をとりまく環境の変化を受け、奈良市は、平成29年2月に奈良町に暮らす魅力、奈良町で商売する魅力、そして、奈良町を訪れる魅力をより一層高めるため、「新奈良町にぎわい構想」を策定した。
- ・本計画は、上記の状況を踏まえ、平成27年1月に奈良県と締結した「まちづくり包括協定」、平成29年12月に法務省、奈良県と締結した「旧奈良監獄、奈良市鴻ノ池運動公園の周辺整備に関する包括協定」、平成31年3月に策定した「奈良市奈良公園周辺地区まちづくり部分基本構想旧奈良監獄周辺エリア」に基づき、奈良公園周辺地区旧奈良監獄周辺エリアを対象としたまちづくりの具体的な事業を整理し、「旧奈良監獄と鴻ノ池運動公園を核とした滞在型スポーツ・健康増進エリア」という取り組みのテーマを基本としつつ、それを発展させ、エリア価値向上とそのイメージの共有を目指すものである。

1. 現状の分析

新型コロナウイルスの影響により例年と大きく異なる2020年のデータは参考とせず、2019年以前のデータによって現状の分析を実施する。

1-2. 奈良市観光入込客数について

2019年に奈良市を訪れた観光客は、1,741.1万人と、前年の1,702.5万人に比べて38.6万人(2.3%)増加。一般観光客は、宿泊客が120.1万人で対前年比8.4%減、日帰り客が1,206.9万人で1.3%減、合計すると1,327.0万人で2.0%の減となった。修学旅行で奈良市を訪れた観光客数は、宿泊客が9.4万人で前年比8.7%減、日帰り客が72.9万人で前年比0.7%減、合計すると82.3万人で1.7%の減となった。一方、外国人観光客は、宿泊客が44.3万人で対前年比36.7%増、日帰り客が287.5万人で23.5%増、合計すると331.8万人で25.2%増加した。

○奈良市観光入込客数

種別		2018年 (万人)	2019年 (万人)	増減 (万人)	増減率 (%)
一般	宿泊	131.1	120.1	-11.0	-8.4
	日帰	1,222.6	1,206.9	-15.7	-1.3
	計	1,353.7	1,327.0	-26.7	-2.0
修学旅行	宿泊	10.3	9.4	-0.9	-8.7
	日帰	73.4	72.9	-0.5	-0.7
	計	83.7	82.3	-1.4	-1.7
外国人	宿泊	32.4	44.3	+11.9	+36.7
	日帰	232.7	287.5	+54.8	+23.5
	計	265.1	331.8	+66.7	+25.2
合計	宿泊	173.8	173.8	0	0.0
	日帰	1,528.7	1,567.3	+38.6	+2.5
	計	1,702.5	1,741.1	+38.6	+2.3

▶奈良市を訪れる人は年間1,741万人いるが、そのうちの約9割が日帰り客である。

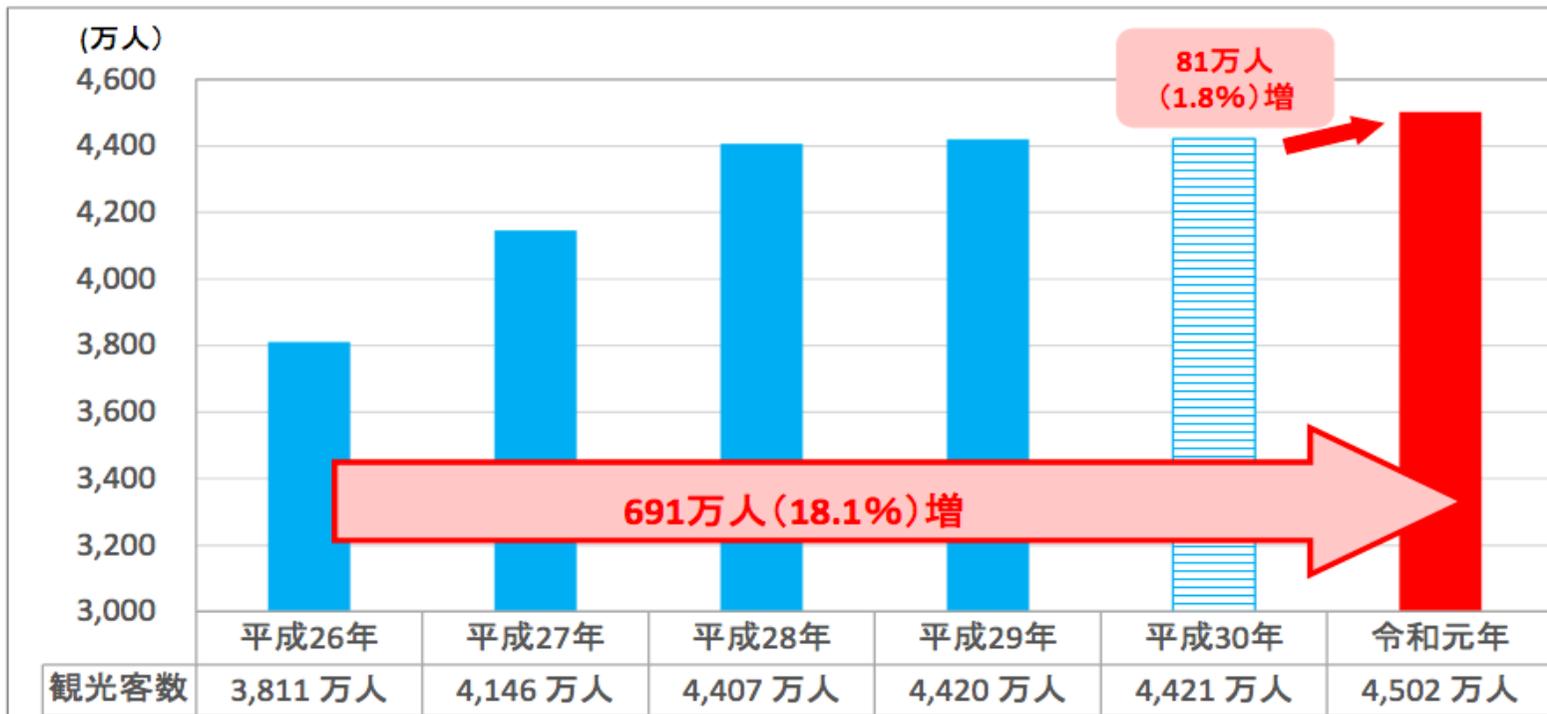
▶奈良市を訪れる日本人観光客は微減。一方、インバウンドは大きく増加した。

1. 現状の分析

1-3. 奈良県の延べ観光客数

2019年の奈良県観光客数は4,502万人で、前年比81万人(1.8%)の増加。8月及び10月は台風の影響による減少が見られた一方、5月は10連休となったゴールデンウィーク及び万葉集が典拠となる「令和」への改元による効果から観光客が増加。また、訪日外国人観光客は年間を通して増加した。

○奈良県 延べ観光客推移【平成26年～令和元年】

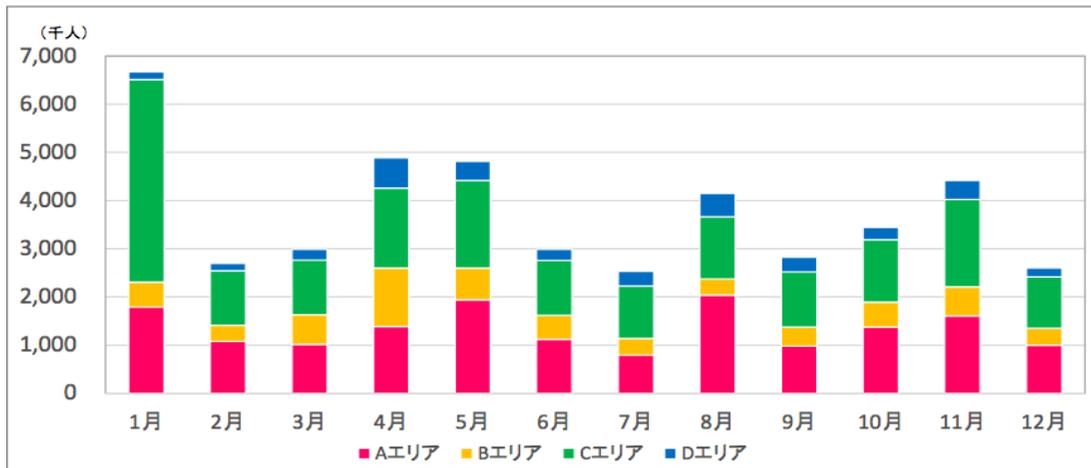


1. 現状の分析

1-4. 奈良県のエリア別観光客数

奈良県全体の観光客は近年増加傾向にあるが、エリア別・月別観光客数の比較では、奈良市が含まれるAエリアと、天理市や桜井市が含まれるCエリアに観光客が集中している。

○奈良県 エリア別・月別観光客数



(単位:千人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
A エリア	1,795	1,078	1,019	1,389	1,942	1,122	796	2,039	977	1,372	1,608	998	16,136
前年比	-0.4%	2.7%	3.7%	-5.2%	2.6%	1.4%	2.8%	-5.0%	-6.2%	-1.0%	3.2%	-0.9%	-0.5%
B エリア	512	334	611	1,213	658	496	345	340	397	523	604	353	6,386
前年比	11.0%	21.2%	-18.2%	10.2%	1.7%	7.0%	15.2%	-0.2%	15.0%	-9.9%	4.1%	26.2%	4.3%
C エリア	4,204	1,132	1,136	1,658	1,816	1,137	1,083	1,283	1,149	1,296	1,809	1,067	18,771
前年比	2.0%	-2.7%	-4.8%	8.2%	22.3%	5.7%	4.4%	-0.1%	5.3%	-10.0%	15.2%	10.1%	4.5%
D エリア	160	154	223	631	397	237	308	488	300	255	395	182	3,730
前年比	-1.2%	0.3%	-9.0%	6.2%	-0.8%	-3.4%	-13.8%	-21.4%	7.6%	-8.4%	1.8%	-4.3%	-4.7%
計	6,671	2,698	2,989	4,890	4,813	2,992	2,533	4,150	2,823	3,446	4,416	2,600	45,022
前年比	1.9%	2.1%	-5.7%	4.2%	8.8%	3.5%	2.6%	-5.5%	2.4%	-6.5%	7.8%	6.3%	1.8%

A (県北部)	奈良市、生駒市、山添村
B (県西部)	大和高田市、大和郡山市、御所市、香芝市、葛城市、平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、上牧町、王寺町、広陵町、河合町
C (県東部)	天理市、橿原市、桜井市、宇陀市、曾爾村、御杖村、高取町、明日香村
D (県南部)	五條市、吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村、野迫川村、十津川村、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村

※出典：奈良県『奈良県観光客動態調査報告書』（2018年1月～2019年12月）

1. 現状の分析

1-5. 都道府県別の2019年観光客数比較

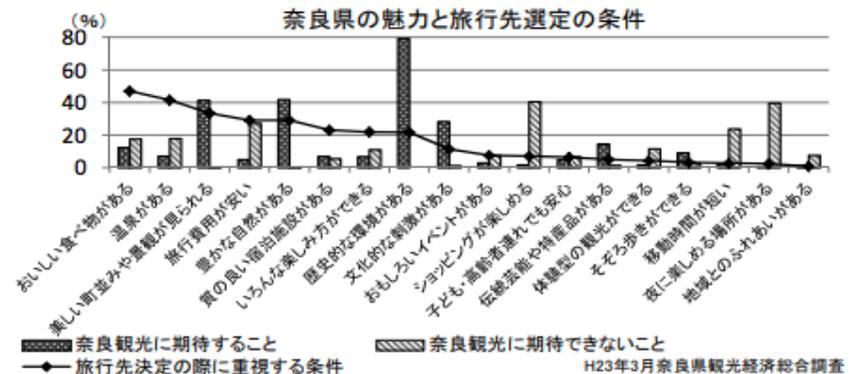
県内での統計では、ここ数年観光客数が増加しているが、全国的な比較では、2019年の延べ宿泊者数が47都道府県中46番目になるなど、滞在型宿泊観光客が少ないという従来からの課題は改善されていない。

都道府県別の延べ宿泊者数（2019年） 単位：人泊

順位	都道府県	延べ宿泊者数	順位	都道府県	延べ宿泊者数
1	東京都	78,981,720	25	岐阜県	7,304,310
2	大阪府	47,427,510	26	長崎県	7,248,850
3	北海道	36,983,420	27	茨城県	6,299,850
4	沖縄県	32,865,670	28	岩手県	6,276,670
5	京都府	30,749,560	29	岡山県	5,660,680
6	千葉県	29,229,120	30	山形県	5,571,860
7	神奈川県	23,883,890	31	埼玉県	5,436,560
8	静岡県	23,429,440	32	和歌山県	5,324,320
9	福岡県	20,420,380	33	滋賀県	5,016,150
10	愛知県	19,337,740	34	香川県	4,659,250
11	長野県	18,052,570	35	青森県	4,605,770
12	兵庫県	14,417,170	36	愛媛県	4,385,520
13	福島県	12,657,410	37	宮崎県	4,320,060
14	広島県	11,630,710	38	福井県	4,144,090
15	宮城県	10,934,100	39	富山県	3,807,890
16	新潟県	10,930,410	40	山口県	3,761,960
17	栃木県	9,559,870	41	秋田県	3,653,930
18	石川県	9,200,650	42	島根県	3,641,650
19	山梨県	9,072,350	43	高知県	2,903,110
20	群馬県	8,648,440	44	鳥取県	2,887,920
21	三重県	8,599,890	45	佐賀県	2,801,730
22	鹿児島県	8,366,340	46	奈良県	2,726,320
23	大分県	7,902,700	47	徳島県	2,568,550
24	熊本県	7,633,470		合計	595,921,480

1-6. 奈良観光への期待値

旅行先の選定条件として重視されるものは、「おいしい食べ物」、「温泉」、「美しい街並みや景観」など。奈良県への観光では、「歴史的環境」への期待が大きい一方で、その他の項目は期待値が低くなっている。



※出典：観光庁『宿泊旅行統計調査』（2020年7月30日アクセス）

※出典：奈良県『奈良県観光経済総合調査』（2011年3月）

2. 課題の抽出

【課題1】点在している奈良市・奈良県の魅力

悠久の歴史を持つ奈良には、神社仏閣以外にも数多くの魅力的なコンテンツが存在する。しかし、それらが点在して存在するため、奈良観光に期待することの多くが「歴史的環境」に集約されてしまっている。特に、「食べ物」「伝統芸能・特産品」への期待値の低さは、奈良という土地への人々の理解不足を如実に表している。

墨・漆器・団扇などの伝統工芸



京都よりも歴史が深い神社仏閣



日本一の数を誇る世界遺産



近代化の歴史を伝える建築



清酒発祥の地が誇る酒蔵



伝統の味を今に伝える食文化



国技相撲の発祥の地という歴史



万葉の歌にも詠まれた豊かな自然



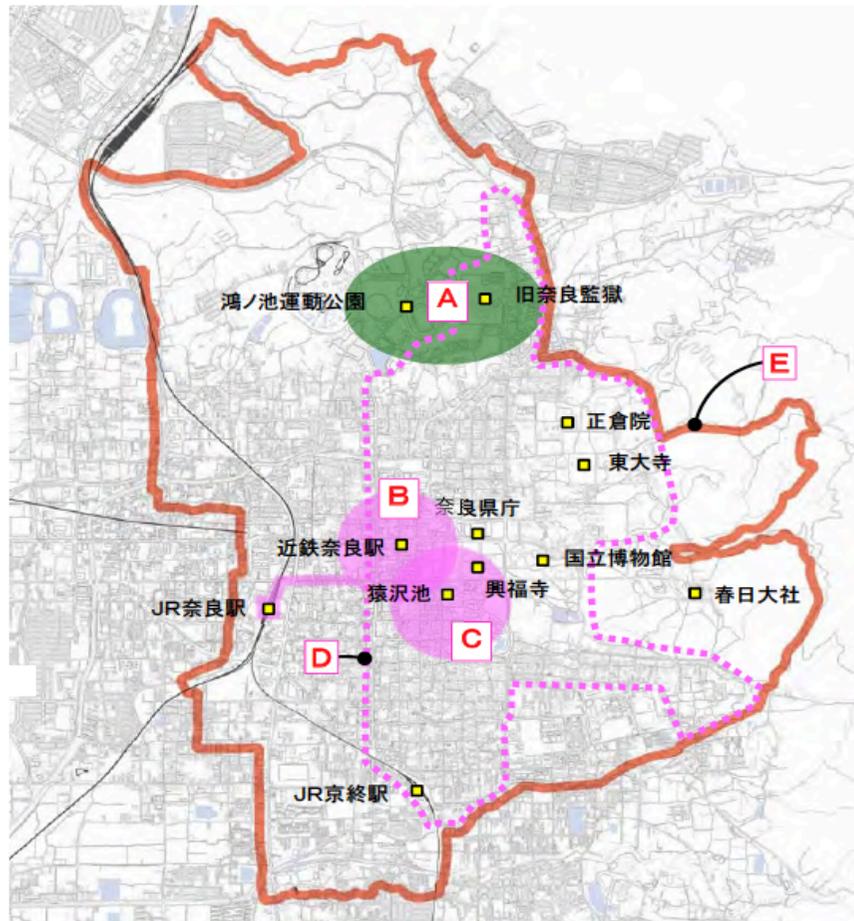
「見所」が少ないから、「日帰り」が多い。

宿泊施設の数の少なさなどの要因はあるが、見るべきもの(＝歴史的環境)が限定されていると思われてしまっていることも、奈良での宿泊型観光が定着しない大きな理由となっていることが予想される。

2. 課題の抽出

【課題2】旧奈良監獄エリアの孤立

奈良の新たな観光名所として期待される旧奈良監獄エリアだが、監獄という元の性質上、他の観光資源と切り離されており、現状のままではシナジーを生み出すことが難しい。



- 奈良公園周辺地区 (E: 全域)
- A : 旧奈良監獄周辺
- B : 近鉄奈良駅周辺
- C : 猿沢池周辺
- D : きたまち・ならまち・京終駅周辺

「監獄ホテル」と「スポーツ」の指向性の乖離。

近接した位置関係から、連携が期待される旧奈良監獄ホテルと鴻ノ池運動公園だが、それぞれを利用する人間の属性は大きく異なる。現状では、旧奈良監獄ホテルに宿泊している観光客が、鴻ノ池運動公園を利用する理由が見つからない。

2. 課題の抽出

【課題2】旧奈良監獄エリアの孤立

鴻ノ池運動公園のスポーツに特化した設備と利用者意識の乖離。

鴻ノ池運動公園の利用者アンケート調査によると、「子供が遊べる遊具広場」や「自由に利用できる芝生広場」、「レストラン、カフェ」を望む声が多い。一方で、現状の施設機能はスポーツに特化しているため、明確な目的を持たずにファミリーが時間を潰せる場所としての利用は望めない。



○アンケート調査による利用者属性別要望整備施設

整備要望施設	要望人数	ひとり	家族 (大人のみ)	家族 (子供連れ)	友達と	団体	その他
散策路、ジョギング路	32	17	5	6	3	1	
サイクリング道路	15	3	4	8			
新たなスポーツ施設	4	2		1		1	
子供が遊べる遊具広場	49	13	7	26	3		
自由に利用できる芝生広場	44	14	8	15	3	3	1
あずまやベンチなどの休憩施設	20	8	3	8			1
ドッグランなどペットと触れ合える施設	12	6	2	4			
水辺のデッキ	6	2	1	1	1	1	
ボート、カヌーなど	2			1	1		
スケートボード広場	6		2	4			
レストラン、カフェ	26	11	7	4	1	2	1
コンビニエンスストア	15	5	6	3	1		
トイレ	5		3	2			
駐車場	11	4	3	3		1	
案内・解説板、標識	2	1	1				
その他	12	8	3	1			
合計	261	94	55	87	13	9	3

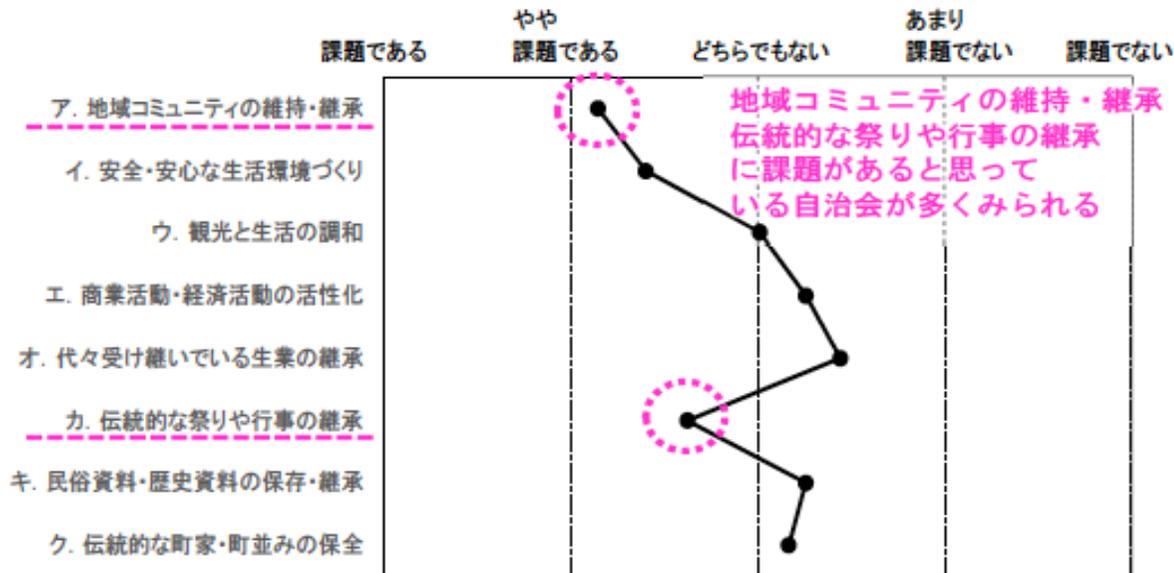
2. 課題の抽出

【課題3】地域コミュニティの希薄化

他の多くの市町村と同様に、少子高齢化による自治会活動の担い手不足や新住民の参加率の低下などの問題が発生している。これにより、伝統的に地域コミュニティによって維持されてきた神社の祭りなどの祭礼の継承も危ぶまれている。地域のコミュニティの希薄化は、町の活気のなさにつながり、観光地としての魅力を損なうことになる。

【自治会が抱える課題】

(自治会長アンケート調査結果)



出典)新奈良町にぎわい構想

職人の減少による古都奈良の風情の消失

ならまち、きたまちでは、墨や奈良筆、奈良団扇、酒をはじめとした伝統産業、工芸が土産物として重宝され、それらが製造、販売される町家や町並みと相まって古都奈良の風情がつくられてきたが、職人が少なくなっており、奈良らしさを感じられる店舗が減少している。

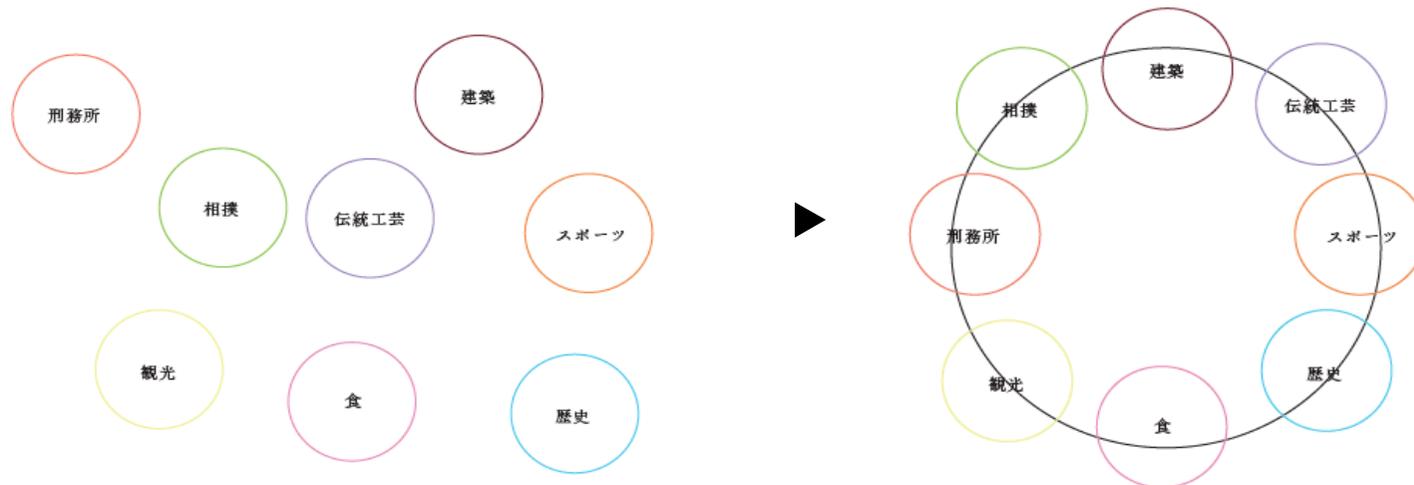


3.まちづくり計画の基本方針

開発コンセプト

点在する奈良の魅力をひとつにつなげる「観光拠点」の創出。

奈良県の中核を担う奈良公園周辺地区内に位置する旧奈良監獄エリアを、奈良を巡るためのベース基地と位置付け、奈良観光の“拠点”を創りだす。



歴史、伝統文化・工芸、奈良監獄、食、自然、そしてスポーツ。

多様なコンテンツを一覧できる場所を生み出すことで、奈良の奥深さを訪れた人々に知ってもらう機会を生み出す。

これにより、歴史なら歴史、刑務所なら刑務所、スポーツならスポーツと、

それぞれに分断されてしまっていた奈良を訪れる理由をつなげ、スポーツを目的に奈良を訪れた人が、日本の行刑の歴史に興味を持ち、刑務所ホテルに泊まりに来るといった相乗効果を生み出す。

4. 事業計画案

4-1. 事業計画概要

奈良の情報がすべて集まるマルシェ 「NARA BASE(仮)」を中心としたエリア開発。

旧奈良監獄を奈良観光の拠点とするための象徴的な施設として、鴻ノ池運動公園敷地内の“緑の丘”に、奈良の食や物産品、伝統工芸品などが集まる、コミュニケーションHUBとしてのマルシェ施設を新設する。

物販からカフェ、体験工房、観光・イベント情報案内まで、 奈良のすべてを集約したコミュニケーションHUB。

各地に存在する「道の駅」のように、単に物産品を販売する場所ではなく、観光客も地元住民も同じ場所に集えるようカフェやレストランなどの機能を持った多目的施設を目指す。また、伝統工芸の体験をイベントとして開催したり、工芸品を販売する際も、その品が製作されている工房の情報や、工房見学の案内を行うなど、この場所をハブとして、奈良の様々なスポットへの送客を促す仕組みをつくる。



マルシェによる町興しに成功した北海道の「フラノマルシェ」。

旧奈良監獄ホテルと鴻ノ池運動公園エリアの機能的連携。

現状では修景・機能的につながりのない2つの施設をつなぐ「緑の丘」に、中間領域となる場を生み出すことで、双方の施設をつないでいく。旧奈良監獄ホテルの宿泊客が運動公園エリアへと足を向ける理由をつくることで、その先のより広域への観光を促す。

気軽に参入しやすい「チャレンジショップ」からのスタート。

マルシェの一階、または屋外などに、自治体が短期間、安価でテナントを貸し出すチャレンジショップを用意する。若手工芸作家などが、低リスクで商売を始められる仕組みを整えることで、地域の若者たちの積極的な参入を促し、活気あるコミュニティの創出を目指す。

商業施設との連携を活かした観光案内所を設置。

単にパンフレットやポスターが並ぶ観光案内所ではなく、実際に工房でつくられているものに触れたり、農家で作られているものを試食できたりする体験型の観光案内所を整備。また、観光地のみならず、町家で行われるイベントやライブの告知など、地域で活動する人々が発信したい情報を集約し拡散できる仕組みを整える。

4. 事業計画案

4-2. NARA BASE(仮)を軸とした周辺環境整備: 2024年

「NARA BASE(仮)」をハブとした、集客・送客のために周辺環境の整備を実施する。

さまざまな観光スポットをつなぐ拠点として、
サイクリングステーションを整備。

近年、奈良市内のレンタサイクルポートの数は増加傾向にあるが、その数は足りていない。鴻ノ池運動公園の「緑の丘」から「中央第二武道場」へと向かう道に大型のサイクリングステーションを設置することで、観光案内所で気になったスポットへと、自転車ですぐに足を運ぶというシームレスな人の流れをつくる。

【レンタサイクルの状況】



アイドリングタイムを潰せる芝生広場と公園の整備。

現在の多目的広場の位置に、旧奈良監獄ホテルを訪れたファミリーや地元の人々が使える、芝生のある広場と遊具やベンチを設置。アイドリングタイムを潰せる場所を整備することで、鴻ノ池運動公園を特定の目的を持たずとも訪れたい場所にしていく。



※芝生広場・公園参考イメージ

鴻ノ池運動公園の敷地を散策路に変えるランドスケープアート。

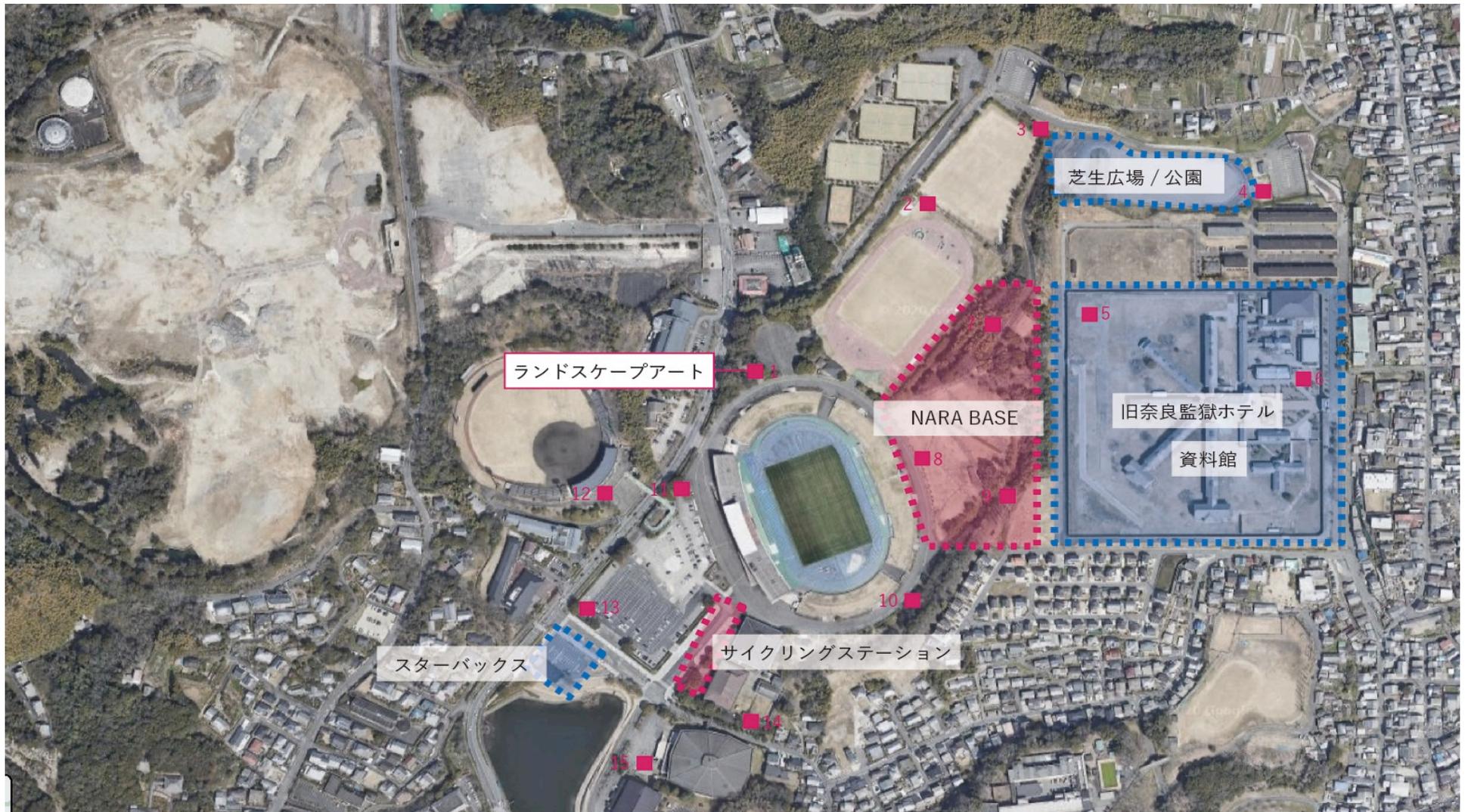
「緑の丘」を開発しても、旧奈良監獄ホテルと鴻ノ池運動公園の修景の違いは大きい。それを埋めるため、鴻ノ池運動公園内に様々なランドスケープアートを設置することで、公園内の通路が回遊型散策路として機能するよう働きかける。



※ランドスケープアート参考イメージ

4. 事業計画案

4-2. NARA BASE(仮)を軸とした周辺環境整備: 2024年



4. 事業計画案

4-3. NARA BASE(仮)を軸とした周辺環境整備: 2030年

旧ドリームランド方面へと人の集まるエリアを拡張し、滞在型観光を促進する。

合宿などの目的でも使用できるリーズナブルな宿泊施設を旧ドリームランドの敷地内に誘致。

奈良の滞在型観光を促進するため、旧ドリームランドの敷地内に宿泊施設を増設する。合宿目的の滞在などにも対応可能なリーズナブルな宿泊施設を用意することで、鴻ノ池運動公園をより有効に活用するとともに、旧奈良監獄を活用した「星のや」に集まる人々とは異なるバックパッカーなどの客層を呼び込み、より多様な人々が集う場所として地域の賑わいを創出する。



レストラン、カフェなど、飲食施設を増設。

宿泊施設の拡充やエリア内施設の充実に伴う人の増加に対応できるよう、レストランやカフェなどの飲食施設も増設。旧奈良監獄エリアだけでも1日を過ごせるようエリア内の施設を充実させることで、奈良での2泊以上の滞在型観光の促進を図る。

親子と一緒に時間を過ごせるアスレチック広場を開発。

子供が時間を潰せる場所があることは、ファミリー層が足を向ける大きな理由になる。現在の多目的広場または廃園となったドリームランドの敷地を利用して、アスレチック広場をつくることで、地元住民や観光客のファミリー層をこの場所に呼び込む。



※アスレチック参考イメージ

観光客、地元住民共に利用できる大規模浴場施設を設置。

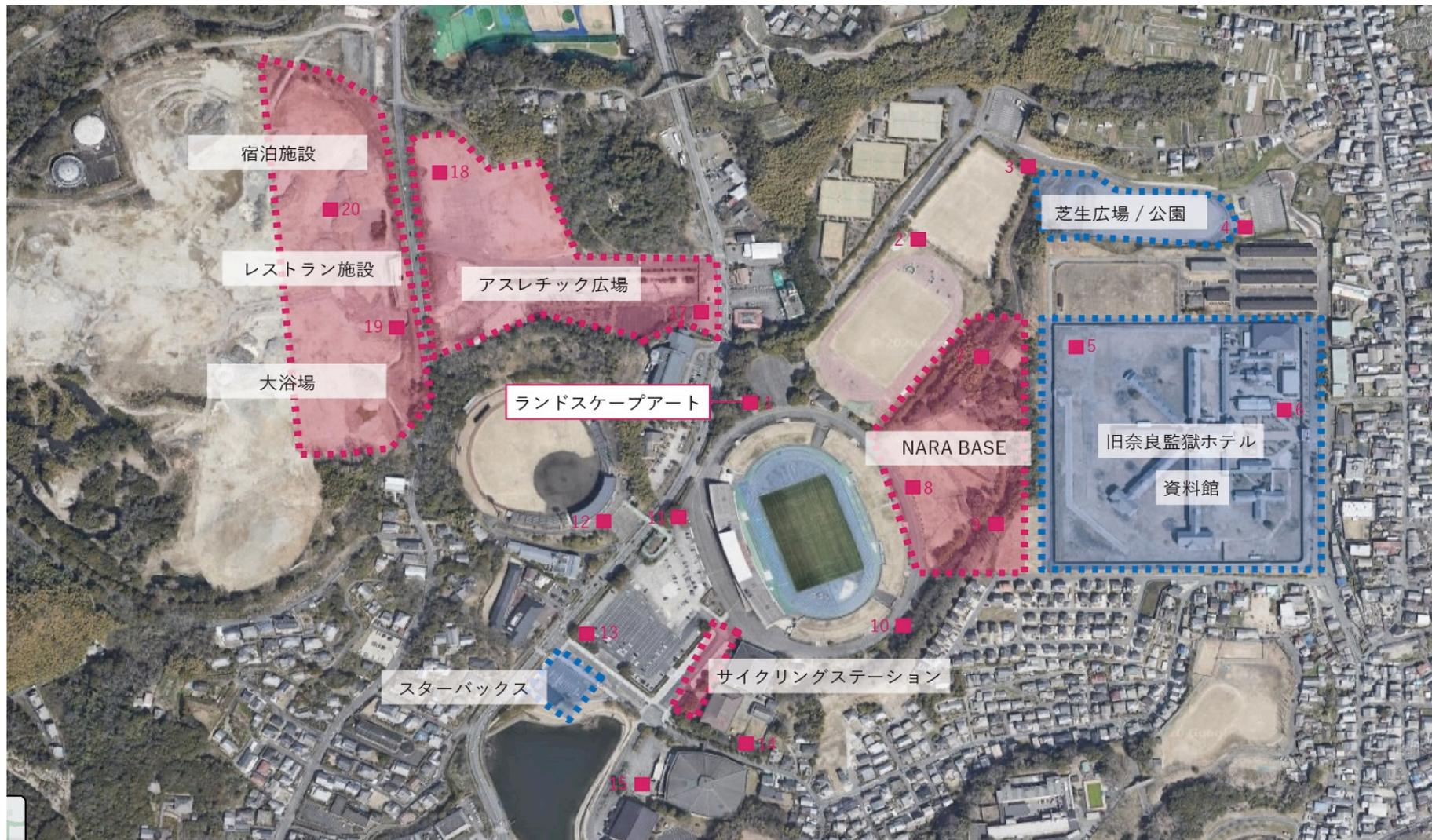
観光で奈良を訪れた人にも、地元で生活する人々にも積極的に利用してもらえる施設として、大規模な浴場設備を設置する。旧ドリームランドの広大な敷地を活用し、大規模な露天風呂などを用意することで、旧奈良監獄エリアのエリア価値を高める。



※大浴場参考イメージ

4. 事業計画案

4-3. NARA BASE(仮)を軸とした周辺環境整備: 2030年



4. 事業計画案

4-4. 各事業イメージパース

NARA BASE(仮)イメージパース



* 画像は過去類似案件のものを使用

4. 事業計画案

4-4. 各事業イメージパース

2024年までは、 旧奈良監獄の敷地内にてマルシェを開催。

旧奈良監獄ホテルがオープンする2024年までは、旧奈良監獄の敷地内にて簡易マルシェを開催。月に1回程度の頻度で定期的にマルシェを行っていくことで、地域住民と当該施設のつながりを醸成していくとともに、「NARA BASE(仮)」本格稼働後のシミュレーションを実施。また、マルシェ参加者同士のコミュニティを醸成することで、「NARA BASE(仮)」のオープン直後からのスムーズな運営を可能にする。



2030年までに、旧ドリームランドエリアまで開発を拡大。

- カフェ、レストラン、宿泊施設などを開発



- 合宿等のニーズにも応えられる簡易宿泊施設



- 地域の人々も利用できる大規模浴場施設



4. 事業計画案

4-5. 達成目標および達成プロセス

～2024年

- 旧奈良監獄敷地内において月1回のマルシェを開催
- 行刑の歴史史料館を定期公開
- 鴻ノ池運動公園敷地内に「NARA BASE(仮)」を建設

2024年

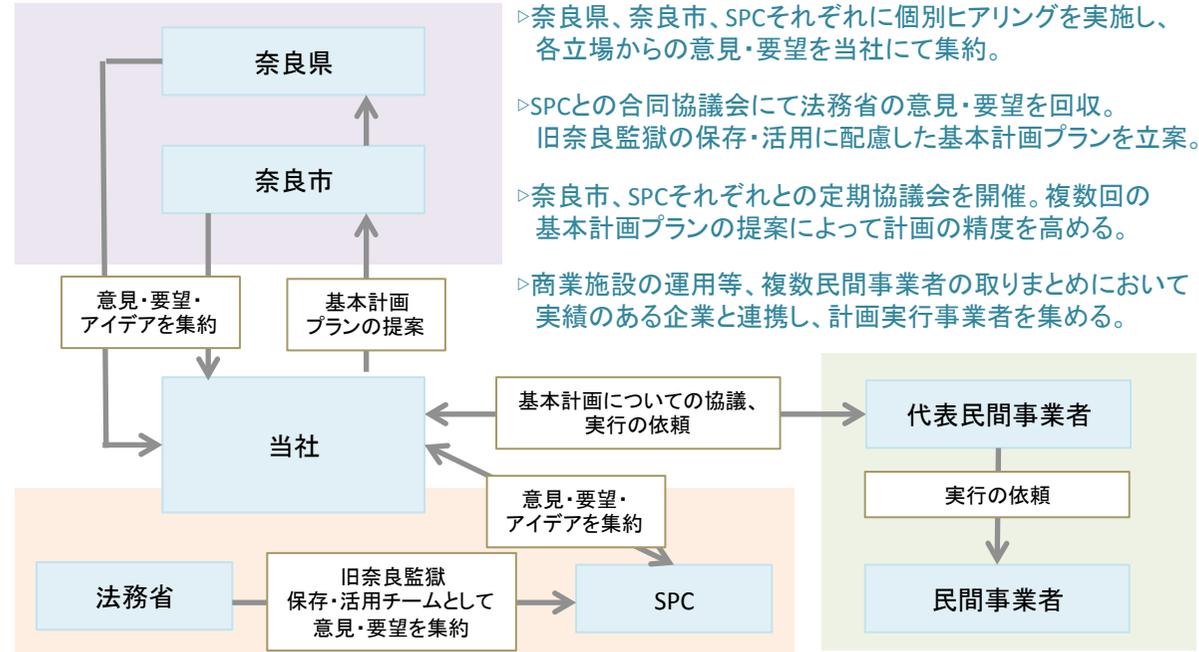
- 旧奈良監獄ホテルをオープン
- 「NARA BASE(仮)」をオープン
- 多目的広場を芝生広場・公園に改修
- 鴻ノ池運動公園内にサイクリングステーションを設置
- 鴻ノ池運動公園内にランドスケープアートを設置

～2030年

- 旧ドリームランドエリアに宿泊施設を増設
- 旧ドリームランドエリアに大規模浴場施設を設置
- 旧ドリームランドエリアにアスレチックガーデンを設置
- 旧ドリームランドエリアにレストラン・カフェ施設を拡充

旧奈良監獄エリアを観光拠点として、
奈良の「滞在型宿泊観光」を促進する。

4-6. 実施フローおよび工程計画



- ▷奈良県、奈良市、SPCそれぞれに個別ヒアリングを実施し、各立場からの意見・要望を当社にて集約。
- ▷SPCとの合同協議会にて法務省の意見・要望を回収。旧奈良監獄の保存・活用に配慮した基本計画プランを立案。
- ▷奈良市、SPCそれぞれとの定期協議会を開催。複数回の基本計画プランの提案によって計画の精度を高める。
- ▷商業施設の運用等、複数民間事業者の取りまとめにおいて実績のある企業と連携し、計画実事業者を集める。

基本計画決定までの工程計画

2021年1月

- 〈前半〉
○プロポーザル提案

- 〈後半〉
○SPC・奈良県・奈良市への個別ヒアリング
○当該エリア現地調査

2021年2月

- 〈前半〉
○ヒアリング内容を踏まえた奈良市との協議

- 基本計画のプランニング
〈後半〉
○奈良市への基本計画プランの提案・協議
○奈良県からの基本計画プランへの意見回収

2021年3月

- 〈前半〉
○奈良市への修正プランの提案・協議
○イメージパース作成開始

- 〈後半〉
○奈良市への基本計画プランの最終提案
○基本計画の決定
○基本計画書、イメージパース等の納品

「NARA BASE(仮)」をWeb空間に再現した、 ポータルメディアの開発・運用。

国内外に訴求力を持つWebの活用が必須となっているが、市内観光産業事業所へのアンケート調査では、プロモーションについて、業種を問わず、利用する割合が高い媒体は「雑誌」となっている。紙媒体からWeb媒体へのシフトを各事業所の努力に任せることは難しい。そこで、奈良のあらゆる観光情報が集約される「NARA BASE(仮)」が媒介となりオウンドメディアによる情報発信を行っていくことで、奈良のさまざまな観光・店舗・イベント情報をオンライン上へと発信していく。

【観光産業事業所における広告の利用実績の有無】

【取材など】TV				【有料広告など】TV			
	有	無	無回答		有	無	無回答
宿泊	11.8%	76.5%	11.8%	宿泊	2.9%	82.4%	14.7%
飲食	25.4%	60.6%	14.1%	飲食	1.4%	73.2%	25.4%
小売	21.7%	60.9%	17.4%	小売	0.0%	76.1%	23.9%
その他	14.8%	63.0%	22.2%	その他	3.7%	70.4%	25.9%
【取材など】新聞				【有料広告など】新聞			
	有	無	無回答		有	無	無回答
宿泊	17.6%	73.5%	8.8%	宿泊	14.7%	73.5%	11.8%
飲食	22.5%	62.0%	15.5%	飲食	0.0%	74.6%	25.4%
小売	19.6%	56.5%	23.9%	小売	10.9%	67.4%	21.7%
その他	14.8%	66.7%	18.5%	その他	3.7%	70.4%	25.9%
【取材など】雑誌				【有料広告など】雑誌			
	有	無	無回答		有	無	無回答
宿泊	29.4%	61.8%	8.8%	宿泊	26.5%	67.6%	5.9%
飲食	39.4%	47.9%	12.7%	飲食	14.1%	64.8%	21.1%
小売	41.3%	41.3%	17.4%	小売	10.9%	65.2%	23.9%
その他	14.8%	66.7%	18.5%	その他	7.4%	70.4%	22.2%
【取材など】WEB				【有料広告など】WEB			
	有	無	無回答		有	無	無回答
宿泊	8.8%	79.4%	11.8%	宿泊	20.6%	73.5%	5.9%
飲食	25.4%	54.9%	19.7%	飲食	15.5%	63.4%	21.1%
小売	17.4%	56.5%	26.1%	小売	6.5%	69.6%	23.9%
その他	25.9%	59.3%	14.8%	その他	22.2%	63.0%	14.8%

出典)奈良市観光振興計画(H29)

奈良の情報が集約される「NARA BASE(仮)」の役割をオンライン上で再現。

「NARA BASE(仮)」内のチャレンジショップへの参入条件として、オウンドメディア上への積極的な記事の投稿を盛り込む。これにより、常に奈良の最新情報が更新される仕組みをつくる。

オンラインショップの開設

オウンドメディアと連動し、「NARA BASE(仮)」で販売されている物品を購入できるオンラインショップ機能を開発する。単にモノを販売するのではなく、そのモノが持つ背景まで伝えていくことで、物品を通して奈良に興味を持つという新たな窓口を開く。

ポータルサイトとして、奈良に関する様々な情報を集約。

観光情報やイベント情報、キャンペーン情報など、奈良に関するあらゆる情報を集約。様々な記事が集まるメディア機能とポータルサイト機能を併せることで、奈良で実施される様々な施策を有機的につなぐ。